

会長メッセージ

「進取の精神」のもと、 「社会の大丈夫をつくっていく。」 企業として持続可能な社会の 実現に貢献します

代表取締役会長執行役員兼
最高経営責任者

鎌上 信也



わたしたちの存在意義

OKIの歴史は、近代日本の黎明期における初の国産電話機の開発から始まりました。以来140年以上にわたりさまざまな事業に取り組む中で継承されてきた、社会の現場の課題に寄り添い、社会のインフラを支えるモノづくり・コトづくりによってその解決に貢献する姿勢は、「中期経営計画2022」の

キーメッセージ「社会の大丈夫をつくっていく。」に端的に表されています。これはOKIグループの存在意義であるとともに、SDGsが目指す2030年、さらには2050年の社会を見据えた、私たちの未来への約束です。

中期経営計画2022と2021年度の概況

このキーメッセージのもと、中期経営計画2022においては、社会課題解決を通じた持続的成長を実現するための土台作りを進めるとともにハードウェア事業を中心とした収益改善を図り、次の中期経営計画において「成長への舵を切る」ことを目指して取り組んでまいりました。しかしながらその2年目である2021年度の業績は、新型コロナウイルス感染症の長期化、サプライチェーンの混乱の深刻化、地政学的リスクの高

まりといった状況下、期初計画を下回る結果となりました。

将来に向けた成長投資や事業構造改革は着実に実行しておりますが、計画策定時の想定を上回る外部環境の変化などに鑑み、現中計の最終年度となる2022年度については単年度計画とし、「成長への土台作り」を継続しながら、サプライチェーン影響対策など「環境変化への対応力」を優先課題として注力いたします。

新たな体制で成長軌道を目指します

2022年4月、経営の意思決定のさらなる迅速化と経営力の一層の強化を図るため、新たに最高経営責任者（CEO）お

よび最高執行責任者（COO）を設置し、私が会長兼CEOに、そして森孝廣が社長兼COOに就任しました。

森新社長は、長く携わったプリンター事業において、独自のマーケティング戦略により新しいビジネスモデルを立ち上げ、事業を拡大した実績があります。グローバルな視点で市場を捉える総合的なマーケティング力、ビジネス全体の循環を描き実行する力とともに、厳しい変革にあたってメンバーがつ

いてくる明るさと人間性を備えており、提案型企業への変革を進める現在のOKIを牽引するのにふさわしい人物であると確信しています。今後は、私がCEOとしてグループ全体の経営戦略を担い、森社長がCOOとして業務執行を統括することで変革を加速し、OKIを再び成長軌道に乗せてまいります。

持続可能な社会の実現に貢献します

深刻化する気候変動をはじめとした環境問題、新型コロナウイルスの感染拡大がもたらした新たな生活様式への適応など、社会は大きな転換期を迎えています。企業は、長期的な視野に立って、持続可能な社会の実現に向けた課題解決に積極的に取り組まねばなりません。

OKIはこの認識に立ち、2020年度、あらためて「社会の大丈夫をつくっていく。」企業としてのマテリアリティを特定しました。その一つ「社会課題を解決するモノ、コトの実現」においては、対応すべき社会課題として、さまざまな形で社会のインフラを支える当事業に関連の深い老朽化問題、自然災害、交通問題、環境問題、労働力不足、労働生産性、感染症拡大を掲げています。このうち環境問題については、モノづくりを行う企業の責任として、「幅広い環境課題の解決に資する商

品の創出」「商品をつくりだす自社拠点のCO₂排出量ゼロ化」という二つのアプローチで中長期の目標を掲げ、取り組みを強化しています。

社会課題・環境課題の解決は、我々の子や孫の世代が負の遺産に苦しまず、安心して暮らせる社会にするための取り組みにほかなりません。OKIグループの一人ひとりが「我が事」として認識し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

OKIグループはこれからも、企業理念に掲げた「進取の精神」のもと、「社会の大丈夫をつくっていく。」企業として、持続的な成長を目指してまいります。引き続き、倍旧のご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。